

# 序

本書は、大ベストセラー『ICU実践ハンドブック』の姉妹書として企画されました。目指したのは、ポケットマニュアルでも教科書でもない、現場で「読める」ハンドブックです。施設としてはwalk-inから重症外傷までを診療する総合的な教育病院の救急部門（ER）を、主たる読者としては初期研修医以上、専門医未満の若手医師を想定しました。

多くは第一線で活躍し、現場のニーズを知り尽くしている気鋭の先生方に書いてもらいました。目論見通り、各項目ともきわめて実践的な内容になっています。一方、めまいの城倉健先生、急性腹症の窪田忠夫先生、中毒の上條吉人先生、小児救急の井上信明先生など、それぞれのテーマで当代一流の先生方にも、執筆に加わっていただくことができました。これらの先生方からは、本書の目玉とも言える素晴らしい原稿をいただいています。

救急では、何より手順が大切です。羅列的な鑑別診断や治療をあげても、実際の役には立ちません。本書でも特に手順を重視し、随所にフローチャートとともに具体的な手順を記しました。また、悩ましいDispositionの判断や、陥りやすいピットフォールについては、特に重点的に書いてもらいました。さらに、構成やレイアウトを工夫し、使いやすさにも配慮しました。

企画から脱稿まで1年半を費やしました。編集を終えた今、当初の目標を越えた素晴らしい本になったと感じています。この間、我々を励まし、おだて、尻を叩いてくれた羊土社編集部の中林雄高さんと溝井レナさんに心から感謝しています。

本書が、ERの現場に持ち出され、24時間365日奮闘している皆さんのお役に立てば、望外の喜びです。

2015年秋分の日

編者を代表して  
檜山鉄矢